

2022年6月5日 午前礼拝
「コリントでのパウロのメッセージ」 説教:大木英雄牧師

【引用聖句】使徒 18:1~11

- 1 その後、パウロはアテネを去って、コリントへ行った。
- 2 ここで、アクラというポント生まれのユダヤ人およびその妻プリスキラに出会った。クラウデオ帝が、すべてのユダヤ人をローマから退去させるように命令したため、近ごろイタリアから来ていたのである。パウロはふたりのところに行き、
- 3 自分も同業者であったので、その家に住んでいっしょに仕事をした。彼らの職業は天幕作りであった。
- 4 パウロは安息日ごとに会堂で論じ、ユダヤ人とギリシヤ人を承服させようとした。
- 5 そして、シラスとテモテがマケドニヤから下って来ると、パウロはみことばを教えることに専念し、イエスがキリストであることを、ユダヤ人たちにはっきりと宣言した。
- 6 しかし、彼らが反抗して暴言を吐いたので、パウロは着物を振り払って、「あなたがたの血は、あなたがたの頭上にふりかけられ。私には責任がない。今から私は異邦人のほうに行く」と言った。
- 7 そして、そこを去って、神を敬うテテオ・ユストという人の家に行った。その家は会堂の隣であった。
- 8 会堂管理者クリスポは、一家をあげて主を信じた。また、多くのコリント人も聞いて信じ、バプテスマを受けた。
- 9 ある夜、主は幻によってパウロに、「恐れなくて、語り続けなさい。黙ってはいけない。
- 10 わたしがあなたとともにいるのだ。だれもあなたを襲って、危害を加える者はない。この町には、わたしの民がたくさんいるから」と言われた。
- 11 そこでパウロは、一年半ここに腰を据えて、彼らの間で神のことばを教え続けた。



【説教要約】

使徒 18:1, その後、パウロはアテネを去って、コリントへ行った。

使徒 18:2, ここで、アクラというポイント生まれのユダヤ人およびその妻プリスキラに出会った。クラウデオ帝が、すべてのユダヤ人をローマから退去させるように命令したため、近ごろイタリアから来ていたのである。パウロはふたりのところに行き、

使徒 18:3, 自分も同業者であったので、その家に住んでいっしょに仕事をした。彼らの職業は天幕作りであった。

使徒 18:4, パウロは安息日ごとに会堂で論じ、ユダヤ人とギリシヤ人を承服させようとした。

使徒 18:5, そして、シラスとテモテがマケドニヤから下って来ると、パウロはみことばを教えることに専念し、イエスがキリストであることを、ユダヤ人たちにはっきりと宣言した。

多くの人はイエス・キリストのことをイエスが苗字でキリストが名前だと思っています。しかし本当はイエスが名前で、**キリストは「救い主」という意味**です。何からの救いいか、と言いますと**罪からの救い**です。

Iヨハネ 3:4, 罪を犯している者はみな、不法を行なっているのです。罪とは律法に逆らうことなのです。

罪とは律法に従わないことです。律法とは交通ルールのようなものです、一時停止は7000円、駐車違反は1万5000円、交通ルールを守れば交通事故から守られます。律法は613個ありますがそれをイエス・キリストは2つにまとめてくださいました。

マタイ 22:37, そこで、イエスは彼に言われた。「『心を尽くし、思いを尽くし、知力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ。』

マタイ 22:39, 『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。』という第二の戒めも、それと同じようにたいせつです。

『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。』一番の隣人は夫婦です。どんなに愛のある人でもみんな自分の基準を持っています。自分の基準と会わないと人を裁きます。アメリカでは2組に1組は離婚しています、日本でも3組に1組が離婚しています。リンカーンのような愛の人でも、夫婦で基準が違くと相手を裁きます。

ローマ 3:23, すべての人は、罪を犯したので、神からの栄誉を受けることができず、

どうして全ての人が罪びととなったのですか。

創世記 1:27, 神はこのように、人をご自身のかたちに創造された。神のかたちに彼を創造し、男と女とに彼らを創造された。

創世記 1:31 神はお造りになったすべてのものを見られた。見よ。それは非常に良かった。夕があり、朝があった。第六日。

神様は人を見て、非常に良かったと言っておられます。どうして人が罪人となったのですか。

創世記 2:17, しかし、善悪の知識の木からは取って食べてはならない。それを取って食べるその時、あなたは必ず死ぬ。」

神様は一つの命令だけをアダムとエバにお与えになりました。しかしアダムとエバは悪魔の誘惑に負けて、神様の一つの命令を破ってしまったのです。

ローマ 5:12, そういうわけで、ちょうどひとりの人 (アダム) によって罪が世界にはいり、罪によって死がはいり、こうして死が全人類に広がったのと同様に、…それというのも全人類が罪を犯したからです。

どうしてアダムが罪を犯したのに私まで罪人にされるのですか。アダムは全人類の代表なのです。日本と中国が戦争した時、日本人は中国人に対してひどいことをしました。その戦争を起こしたのは日本の代表です。代表が犯した罪の責任は日本人全体がその責任を負わなければならないのです。アダムの犯した罪の責任はすべての人が負わなければならないのです。

ローマ 3:23, すべての人は、罪を犯したので、神からの栄誉を受けることができず、

ヘブル 9:27, そして、人間には、一度死ぬことと死後にさばきを受けることが定まっているように、

全ての人は罪人ですから死後、神様から全ての人は裁かれなければなりません。**この神様の裁きから救ってくださるのがキリストなのです。**

ローマ 5:8, しかし私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神は私たちに対するご自身の愛を明らかにしておられます。

私たち罪人が受ける神様の裁きをキリストが十字架の上で身代わりとなって受けてくださったのです。この**キリストの身代わりを信じるだけで救われるのです。**

使徒 18:6, しかし、彼らが反抗して暴言を吐いたので、パウロは着物を振り払って、「あなたがたの血は、あなたがたの頭上にふりかけられ。私には責任がない。今から私は異邦人のほうに行く。」と言った。

ヘブル 9:27, そして、人間には、一度死ぬことと死後にさばきを受けることが定まっているように、

パウロは全ての人は神様の裁きを受けるので、**福音を語ることを自分の責任**と考えています。ボートが川で流されている。川下には滝があると知っていたら私たちはどんな危険を冒してもでもボートに乗っている人たちを助けようとする。パウロは神様の裁きを受ける人たちを助けるのは自分の責任と考えています。私はパウロのように考えていないことを恥ずかしく思います。

使徒 18:9, ある夜、主は幻によってパウロに、「恐れなくて、語り続けなさい。黙ってはいけません。」

使徒 18:10, わたしがあなたとともにいるのだ。だれもあなたを襲って、危害を加える者はない。この町には、わたしの民がたくさんいるから。」と言われた。

パウロは復活されたイエス様に直接お会いしました。そしてイエスから直接お声をかけていただきました。私たちはパウロのようにイエス様から直接お声をかけていただいたことはありませんが、**御言葉に従えば神様が働いてくださる**という経験をすることが出来ます。

先週はアブラハムが御言葉に従ったので神様が働いてくださいました。モーセが御言葉に従ったので神様が働いてくださいました。カデシュバルネアでイスラエルの民はネフィリム人のアナク人を恐れて神様の御言葉に従わなかったため、ヨシアトカレブ以外の 20 歳以上の男子 60 万人は荒野で 40 年間さまよい全員殺されました。**神様の御言葉に従わないことは神様を侮ることです。**

(1) 士師記 6:11, さて主の使いが来て、アビエゼル人ヨアシュに属するオフラにある櫛の木の下にすわった。このとき、ヨアシュの子ギデオンはミデヤン人からのがれて、酒ぶねの中で小麦を打っていた。

士師記 6:12, 主の使いが彼に現われて言った。「勇士よ。主があなたといっしょにおられる。」

士師記 6:13, ギデオンはその御使いに言った。「ああ、主よ。もし主が私たちといっしょにおられるなら、なぜこれらのことがみな、私たちに起こったのでしょうか。私たちの先祖たちが、『主は私たちをエジプトから上らせたではないか。』と言って、私たちに話したあの驚くべきみわざはみな、どこにありますか。今、主は私たちを捨てて、ミデヤン人の手に渡されました。」

主の使いはギデオンにその理由を説明されませんでした。

士師記 6:1, イスラエル人はまた、主の目の前に悪を行なった。そこで、主は七年の間、彼らをミデヤン人の手に渡した。

士師記 6:14, すると、主は彼に向かって仰せられた。「あなたのその力で行き、イスラエルをミデヤン人の手から救え。わたしがあなたを遣わすのではないか。」

士師記 6:15, ギデオンは言った。「ああ、主よ。私にどのようにしてイスラエルを救うことができますでしょうか。ご存じのように、私の分団はマナセのうちで最も弱く、私は父の家で一番若いのです。」

士師記 6:16, 主はギデオンに仰せられた。「わたしはあなたといっしょにいる。だからあなたはひとり打ち殺すようにミデヤン人を打ち殺そう。」

神様はギデオンに、「**わたしはあなたと一緒にいる。あなたがわたしに従えば、わたしが働く**」と言っておられるのです。しかしギデオンは神様の言葉を信じられませんでした。

士師記 6:17, すると、ギデオンは言った。「お願いです。私と話しておられるのがあなたであるというしるしを、私に見せてください。」

ギデオンは、「わたしと話しているのが神様だ」という証拠を見せてくださいと言いました。

士師記 6:18, どうか、私が贈り物を持って来て、あなたのところに帰り、御前にそれを供えるまで、ここを離れないでください。」それで、主は、「あなたが戻って来るまで待とう。」と仰せられた。

士師記 6:19, ギデオンはうちにはいり、一匹のやぎの子を料理し、一エパの粉で種を入れないパンを作り、その肉をかごに入れ、また吸い物をなべに入れ、樫の木の下にいる方のところに持って来て、供えた。

士師記 6:20, すると、神の使いはギデオンに言った。「肉と種を入れないパンを取って、この岩の上に置き、その吸い物を注げ。」それで彼はそのようにした。

士師記 6:21, すると主の使いは、その手にしていた杖の先を伸ばして、肉と種を入れないパンに触れた。すると、たちまち火が岩から燃え上がって、肉と種を入れないパンを焼き尽くしてしまった。主の使いは去って見えなくなった。

ギデオンは証拠を見て、やっと自分と話しているお方が主の使いだと信じるのです。

士師記 6:22, これで、この方が主の使いであったことがわかった。それで、ギデオンは言った。「ああ、神、主よ。私は面と向かって主の使いを見てしまいました。」

士師記 6:23, すると、主はギデオンに仰せられた。「安心なさい。恐れるな。あなたは死なない。」

士師記 6:24, そこで、ギデオンはそこに主のために祭壇を築いて、これをアドナイ・シャロムと名づけた。これは今日まで、アビエゼル人のオフラに残っている。

士師記 6:25, その夜、主はギデオンに仰せられた。「あなたの父の雄牛、七歳の第二の雄牛を取り、あなたの父が持っているバアルの祭壇を取りこわし、そのそばのアシェラ像を切り倒せ。」

士師記 6:26, そのとりでの頂上に、あなたの神、主のために石を積んで祭壇を築け。あの第二の雄牛を取り、切り倒したアシェラ像の木で全焼のいけにえをささげよ。」

士師記 6:27, そこで、ギデオンは、自分のしもべの中から十人を引き連れて、主が言われたとおりにした。彼は父の家の者や、町の人々を恐れたので、昼間それをせず、夜それを行なった。

士師記 6:28, 町の人々が翌朝早く起きて見ると、バアルの祭壇は取りこわされ、そのそばにあったアシェラ像は切り倒され、新しく築かれた祭壇の上には、第二の雄牛がささげられていた。

士師記 6:29, そこで、彼らは互いに言った。「だれがこういうことをしたのだろう。」それから、彼らは調べて、尋ね回り、「ヨアシュの子ギデオンがこれをしたのだ。」と言った。

士師記 6:30, ついで、町の人々はヨアシュに言った。「あなたの息子を引張り出して殺さない。あれはバアルの祭壇を取りこわし、そばにあったアシェラ像も切り倒したのだ。」

士師記 6:31, すると、ヨアシュは自分に向かって立っているすべての者に言った。「あなたがたは、バアルのために争っているのか。それとも、彼を救おうとするのか。バアルのために争う者は、朝までに殺されてしまう。もしバアルが神であるなら、自分の祭壇が取りこ

わされたのだから、自分で争えばよいのだ。」

士師記 6:32, こうして、その日、ギデオンはエルバアルと呼ばれた。自分の祭壇が取りこわされたのだから「バアルは自分で争えばよい。」という意味である。

ギデオンは主の使いが言われた通り、父のバアルの祭壇を取りこわし、そのそばのアシェラ像を切り倒した。ギデオンは主の使いの言葉に従いました。ギデオンのお父さんも立派です。ヨアシュ（ギデオンの父）は自分に向かって立っているすべての者に言った。「あなたがたは、バアルのために争っているのか。それとも、彼を救おうとするのか。バアルのために争う者は、朝までに殺されてしまう。もしバアルが神であるなら、自分の祭壇が取りこわされたのだから、自分で争えばよいのだ。」

士師記 6:36, ギデオンは神に申し上げた。「もしあなたが仰せられたように、私の手でイスラエルを救おうとされるなら、

士師記 6:37, 今、私は打ち場に刈り取った一頭分の羊の毛を置きます。もしその羊の毛の上にだけ露が降りていて、土全体がかわいていたら、あなたがおことばのとおり私の手でイスラエルを救われることが、私にわかります。」

士師記 6:38, すると、そのようになった。ギデオンが翌日、朝早く、その羊の毛を押しつけて、その羊の毛から露を絞ると、鉢いっぱいになるほど水が出た。

士師記 6:39, ギデオンは神に言った。「私に向かって御怒りを燃やさないでください。私にもう一回言わせてください。どうぞ、この羊の毛でもう一回だけ試みさせてください。今度はこの羊の毛だけがかわいていて、土全体には露が降りるようにしてください。」

士師記 6:40, それで、神はその夜、そのようにされた。すなわち、その羊の毛の上だけがかわいていて、土全体には露が降りていた。

ギデオンはまた神様に証拠を求めています。しかし神様はギデオンの証拠に答えてくださっています。

士師記 7:1, それで、エルバアル、すなわちギデオンと、彼といっしょにいた民はみな、朝早くハロデの泉のそばに陣を敷いた。ミデヤン人の陣営は、彼の北に当たり、モレの山沿いの谷にあった。

士師記 7:2, そのとき、主はギデオンに仰せられた。「あなたといっしょにいる民は多すぎるから、わたしはミデヤン人を彼らの手に渡さない。イスラエルが『自分の手で自分を救った。』と言って、わたしに向かって誇るといけないから。

士師記 7:3, 今、民に聞こえるように告げ、『恐れ、おののく者はみな帰りなさい。ギルアデ山から離れなさい。』と言え。」すると、民のうちから二万二千人が帰って行き、一万人が残った。

士師記 7:4, すると、主はギデオンに仰せられた。「民はまだ多すぎる。彼らを連れて水のところに下って行け。わたしはそこで、あなたのために彼らをためそう。わたしがあなたに、『この者はあなたといっしょに行かなければならない。』と言うなら、その者は、あなたといっしょに行かなければならない。またわたしがあなたに、『この者はあなたといっしょに行ってはならない。』と言う者はだれも、行ってはならない。」

士師記 7:5, そこでギデオンは民を連れて、水のところに下って行った。すると、主はギデオンに仰せられた。「犬がなめるように、舌で水をなめる者は残らず別にしておき、また、

ひざについて飲む者も残らずそうせよ。」

士師記 7:6, そのとき、口に手を当てて水をなめた者の数は三百人であった。残りの民はみな、ひざについて水を飲んだ。

士師記 7:7, そこで主はギデオンに仰せられた。「手で水をなめた三百人で、わたしはあなたがたを救い、ミデヤン人をあなたの手に渡す。残りの民はみな、それぞれ自分の家に帰らせよ。」

士師記 7:8, そこで彼らは民の糧食と角笛を手にとった。こうして、ギデオンはイスラエル人をみな、それぞれ自分の天幕に送り返し、三百人の者だけを引き止めた。ミデヤン人の陣営は、彼から見て下の谷にあった。

士師記 7:9, その夜、主はギデオンに仰せられた。「立って、あの陣営に攻め下れ。それをあなたの手に渡したから。」

士師記 7:10, しかし、もし下って行くことを恐れるなら、あなたに仕える若い者プラといっしょに陣営に下って行き、

士師記 7:11, 彼らが何と言っているかを聞け。そのあとで、あなたは、勇気を出して、陣営に攻め下らなければならない。」そこで、ギデオンと若い者プラとは、陣営の中の編隊の端に下って行った。

神様はどこまでもギデオンにやさしい。

士師記 7:12, そこには、ミデヤン人や、アマレク人や、東の人々がみな、いなごのように大ぜい、谷に伏していた。そのらくだは、海辺の砂のように多くて数えきれなかった。

士師記 7:13, ギデオンがそこに行ってみると、ひとりの者が仲間に夢の話をしていた。ひとりが言うには、「私は今、夢を見た。見ると、大麦のパンのかたまりが一つ、ミデヤン人の陣営にころがって来て、天幕の中にまではいり、それを打ったので、それは倒れた。ひっくり返って、天幕は倒れてしまった。」

士師記 7:14, すると、その仲間は答えて言った。「それはイスラエル人ヨアシュの子ギデオンの剣にほかならない。神が彼の手でミデヤンと、陣営全部を渡されたのだ。」

士師記 7:15, ギデオンはこの夢の話とその解釈を聞いたとき、主を礼拝した。そして、イスラエルの陣営に戻って言った。「立て。主はミデヤン人の陣営をあなたがたの手に下さった。」

ギデオンが御言葉に従ったとき神様が働いて、ミデヤン人を夢で恐れさせた。御言葉に従うと神様が働いてくださいます。

士師記 7:16, そして、彼は三百人を三隊に分け、全員の手で角笛とからつぼを持たせ、そのつぼの中にたいまつを入れさせた。

士師記 7:17, それから、彼らに言った。「私を見て、あなたがたも同じようにしなければならぬ。見よ。私が陣営の端に着いたら、私がするように、あなたがたもそうしなければならぬ。」

士師記 7:18, 私と、私といっしょにいる者がみな、角笛を吹いたなら、あなたがたもまた、全陣営の回りで角笛を吹き鳴らし、『主のためだ。ギデオンのためだ。』と言わなければならない。」

士師記 7:19, ギデオンと、彼といっしょにいた百人の者が、真夜中の夜番の始まる時、陣

營の端に着いた。ちょうどその時、番兵の交替をしたばかりであった。それで、彼らは角笛を吹き鳴らし、その手に持っていたつぼを打ちこわした。

士師記 7:20, 三隊の者が角笛を吹き鳴らして、つぼを打ち砕き、それから左手にたいまつを堅く握り、右手に吹き鳴らす角笛を堅く握って、「主の剣、ギデオンの剣だ。」と叫び、士師記 7:21, それぞれ陣營の周囲の持ち場に着いたので、陣營の者はみな走り出し、大声をあげて逃げた。

士師記 7:22, 三百人が角笛を吹き鳴らしている間に、主は、陣營の全面にわたって、同士打ちが起こるようにされた。それで陣營はツエレラのほうのベテ・ハシタや、タバテの近くのアベル・メホラの端まで逃げた。

士師記 7:23, イスラエル人はナフタリと、アシェルと、全マナセから呼び集められ、彼らはミデヤン人を追撃した。

士師記 7:24, ついで、ギデオンはエフライムの山地全域に使者を送って言った。「降りて来て、ミデヤン人を攻めなさい。ベテ・バラまでの流れと、ヨルダン川を攻め取りなさい。」そこでエフライム人はみな呼び集められ、彼らはベテ・バラまでの流れと、ヨルダン川を攻め取った。

士師記 7:25, また彼らはミデヤン人のふたりの首長オレブとゼエブを捕え、オレブをオレブの岩で、ゼエブをゼエブの酒ぶねで殺し、こうしてミデヤン人を追撃した。彼らはヨルダン川の向こう側にいたギデオンのところに、オレブとゼエブの首を持って行った。

神様の御言葉に従えば神様は働いてくださいます。カデシュバルネアでは、神様と何も相談せず、自分たちの考えで「イスラエル人はネフィリム人のアナク人と戦っても完全に負ける」と決めてしまったことです。ギデオンはいつも神様と相談しています。そして御言葉に従っています。神様の御言葉に従えば神様が働いてくださいます。

(2)サムエル記第一 15:2, 万軍の主はこう仰せられる。『わたしは、イスラエルがエジプトから上って来る途中、アマレクがイスラエルにしたことを罰する。

サムエル記第一 15:3, 今、行って、アマレクを打ち、そのすべてのものを聖絶せよ。容赦してはならない。男も女も、子どもも乳飲み子も、牛も羊も、らくだもろばも殺せ。』

サムエル記第一 15:4, そこでサウルは民を呼び集めた。テライムで彼らを数えると、歩兵が二十万、ユダの兵士が一万であった。

サムエル記第一 15:5, サウルはアマレクの町へ行って、谷で待ち伏せた。

サムエル記第一 15:6, サウルはケ二人たちに言った。「さあ、あなたがたはアマレク人の中から離れて下って行きなさい。私があなたがたを彼らといっしょにするといけないから。あなたがたは、イスラエルの民がすべてエジプトから上って来るとき、彼らに親切にしてくれたのです。」そこでケ二人はアマレク人の中から離れた。

サムエル記第一 15:7, サウルは、ハビラから、エジプトの東にあるシュルのほうのアマレク人を打ち、

サムエル記第一 15:8, アマレク人の王アガグを生けどりにし、その民を残らず剣の刃で聖絶した。

サムエル記第一 15:9, しかし、サウルと彼の民は、アガグと、それに、肥えた羊や牛の最も良いもの、子羊とすべての最も良いものを惜しみ、これらを聖絶するのを好まず、ただ、つまらない、値打ちのないものだけを聖絶した。

サウルは神様の言葉に従いました。しかし 100 パーセンではなく 95 パーセント従いました。肥えた羊や牛の最も良いもの、子羊とすべての最も良いものを惜しみ、これらを聖絶するのを好まず、ただ、つまらない、値打ちのないものだけを聖絶した。私たちも 100 パーセント従うのではなく 95 パーセント従えば、まあいいかと考えてしまいます。

サムエル記第一 15:10, そのとき、サムエルに次のような主のことばがあった。

サムエル記第一 15:11, 「わたしはサウルを王に任じたことを悔いる。彼はわたしに背を向け、わたしのことばを守らなかったからだ。」それでサムエルは怒り、夜通し主に向かって叫んだ。

サムエル記第一 15:12, 翌朝早く、サムエルがサウルに会いに行こうとしていたとき、サムエルに告げて言う者があった。「サウルはカルメルに行って、もう、自分のために記念碑を立てました。それから、引き返して、進んで、ギルガルに下りました。」

サムエル記第一 15:13, サムエルがサウルのところに行くと、サウルは彼に言った。「主の祝福がありますように。私は主のことばを守りました。」

サムエル記第一 15:14, しかしサムエルは言った。「では、私の耳にはいるあの羊の声、私に聞こえる牛の声は、いったい何ですか。」

サムエル記第一 15:15, サウルは答えた。「アマレク人のところから連れて来ました。民は羊と牛の最も良いものを惜しんだのです。あなたの神、主に、いけにえをささげるためです。そのほかの物は聖絶しました。」

サムエル記第一 15:16, サムエルはサウルに言った。「やめなさい。昨夜、主が私に仰せられたことをあなたに知らせます。」サウルは彼に言った。「お話してください。」

サムエル記第一 15:17, サムエルは言った。「あなたは、自分では小さい者にすぎないと思っただけでも、イスラエルの諸部族のかしらではありませんか。主があなたに油をそそぎ、イスラエルの王とされました。」

サムエル記第一 15:18, 主はあなたに使命を授けて言われました。『行って、罪人アマレク人を聖絶せよ。彼らを絶滅させるまで戦え。』

サムエル記第一 15:19, あなたはなぜ、主の御声に聞き従わず、分捕り物に飛びかかり、主の目の前に悪を行なったのですか。」

サムエル記第一 15:20, サウルはサムエルに答えた。「私は主の御声に聞き従いました。主が私に授けられた使命の道を進めました。私はアマレク人の王アガグを連れて来て、アマレクを聖絶しました。」

サムエル記第一 15:21, しかし民は、ギルガルであなたの神、主に、いけにえをささげるために、聖絶すべき物の最上の物として、分捕り物の中から、羊と牛を取って来たのです。」

サウルの罪は主の言葉ではなく、民の言葉に従ったからです。サウルは主の言葉より民の言葉に従ったのです。サウルは主を恐れていなかったのです。主の御言葉に 100 パーセント従わなければならないのです。私たちはサウルから学ぶことが多くあります。95 パーセントも従えば自分は従っていると思いがちです。100 パーセント従わなければ従ったことにならないのです。

サムエル記第一 15:22, するとサムエルは言った。「主は主の御声に聞き従うことほどに、全焼のいけにえや、その他のいけにえを喜ばれるだろうか。見よ。聞き従うことは、いけにえにまさり、耳を傾けることは、雄羊の脂肪にまさる。」

サムエル記第一 15:23, まことに、そむくことは占いの罪、従わないことは偶像礼拝の罪だ。あなたが主のことばを退けたので、主もあなたを王位から退けた。」

サムエル記第一 15:24, サウルはサムエルに言った。「私は罪を犯しました。私は主の命令と、あなたのことばにそむいたからです。私は民を恐れて、彼らの声に従ったのです。」

サムエル記第一 15:25, どうか今、私の罪を赦し、私といっしょに帰ってください。私は主を礼拝いたします。」

サムエル記第一 15:26, すると、サムエルはサウルに言った。「私はあなたといっしょに帰りません。あなたが主のことばを退けたので、主もあなたをイスラエルの王位から退けたからです。」

御言葉に従わなければ神様から裁きを受けます。

(3)サムエル記第一 24:1, サウルがペリシテ人討伐から帰って来たとき、ダビデが今、エン・ゲディの荒野にいたということが知らされた。

サムエル記第一 24:2, そこでサウルは、イスラエル全体から三千人の精鋭をえり抜いて、エエリムの岩の東に、ダビデとその部下を捜しに出かけた。

サムエル記第一 24:3, 彼が、道ばたの羊の群れの囲い場に来たとき、そこにほら穴があったので、サウルは用をたすためにその中にはいった。そのとき、ダビデとその部下は、そのほら穴の奥のほうにすわっていた。

サムエル記第一 24:4, ダビデの部下はダビデに言った。「今こそ、主があなたに、『見よ。わたしはあなたの敵をあなたの手に渡す。彼をあなたのよいと思うようにせよ。』と言われた、その時です。」そこでダビデは立ち上がり、サウルの上着のすそを、こっそり切り取った。

サムエル記第一 24:5, こうして後、ダビデは、サウルの上着のすそを切り取ったことについて心を痛めた。

サムエル記第一 24:6, 彼は部下に言った。「私が、主に逆らって、主に油そそがれた方、私の主君に対して、そのようなことをして、手を下すなど、主の前に絶対にできないことだ。彼は主に油そそがれた方だから。」

サムエル記第一 24:7, ダビデはこう言って部下を説き伏せ、彼らがサウルに襲いかかるのを許さなかった。サウルは、ほら穴から出て道を歩いて行った。

サウルは、ダビデがゴリアテを殺したことを喜び、自分の娘までダビデに与えました。しかしダビデがサウロより人気者になるとサウロはダビデをねたむようになり、ねたむだけでなく殺すようになりました。一国の王が 3000 人の精鋭を連れてダビデを殺しに来たのです。しかもサウロは用を足すために洞穴に入ってきたのです。その洞穴の奥にダビデの部下 400 人が隠れていたのです。

ダビデの部下はサウロがダビデを殺しに来たことを知っているのです。神様がダビデにサウロを殺すチャンスを与えたのだと言うのです。ダビデの部下でなくても誰が考えてもサウロはダビデを殺すために来たのですから、ダビデがサウロを殺してしまえば、もうサウロから逃げなくてもいいのです。しかしダビデは神様を恐れているのです。

「主を恐れることは知識の初めである」(箴言 1:7)

ダビデは神様に油注がれたサウロを殺してはならない。ダビデは神様の命令がなければ人間的には絶好のチャンスと思えてもサウロを殺さないのです。多くの失敗は人間的に良かれと思ってやることです。神様の命令でないとダビデは絶対しない人です。

御言葉に従えば神様が働いてくださるのです。人間的な思いでやると失敗します。これは口で言うことは簡単ですが、心から神様を信頼していないと出来るものではありません。

マタイ 22:39, 『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。』という第二の戒めも、それと同じようにたいせつです。これは神様の命令です。御言葉に従えば神様が働いてくださいます。